

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポートハウス おりいぶ		
○保護者評価実施期間	2026年1月5日		～ 2026年1月17日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○従業者評価実施期間	2026年1月6日		～ 2026年1月12日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月20日		

○分析結果

	事業所の強み (※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・障害特性に合った個別の対応や支援内容を実践検討していること	・保護者や他職員、相談員等からのモニタリングや支援計画のミーティング等で意見を出し合い、プログラムを検討できている。前日の活動などの振り返りから、その日一緒に活動していた職員の見解を基本にして支援内容の検討材料になっている	・個別対応が出来る職員は、まだまだ数が限られているため、支援の内容や情報共有を行い、全職員が把握できる環境を作っていく
2	・多岐にわたる支援プログラムの充実化 (幅が広く5領域に則しての活動の実施を行うことができている)	・固定化して意義のある支援内容 (生活スキルの向上等) は繰り返し実践しており、定着して職員も理解しながら支援を提供できていると言える、また子どもたちも同様に支援内容自体も月年齢ごとに変化していることを踏まえて、身に付けることができている	・障害特性の柔軟化や月年齢よっての捉え方が変化に伴い、少しずつ変化を付けて行くことが必要といえる、今の支援に研修や教材支援プログラムの情報を+αとして取り入れ、変化に富んだ支援を継続していく
3			

	事業所の弱み (※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・公的な関係機関や関係事業所との連携の仕方がまだまだ足りない	・児発管や管理者レベルでの交流や連携が多い。参加するメンバーも固定化しがちである	・メンバーや内容が決まっている連携等は、その状況を他職員にも共有把握を促していく。必要であれば、保育士や児童指導員レベルの参加も促していく
2	・情報発信の不足	・保護者への情報発信は、SMSやInstagram、HUG (支援システム) 等を活用して行っているが、うまく活用できていない	・日々の活動の情報発信は保護者向けに可能となっているため、それ以外にも、研修や興味のある情報や交流会の実施なども継続して提示及び実施に繋げていく
3			